

杉並ぐるる

つなぐ ささえる ひろがる

2022年6月発行 vol.

24



このマークは、「顔は知っているけれど…」というご近所さん同士が、お互いに助けあえるような第一歩を踏み出してほしい、という思いから生まれました。困ったときに「ちょっと手伝って」「手伝いましょうか」とお声が掛けあえる関係に繋がれば、嬉しく思います。ぜひご活用ください。

杉並区 生活支援体制整備 マーク

検索



杉並区では、地域住民がいくつになっても安心して住み続けられる地域づくりを目指しています。そうした地域づくりを実現するためには、医療や介護といった公的なサービスだけでなく、見守りや交流サロン、外出支援などの住民同士の支えあいが重要です。

本冊子「杉並ぐるる」は、支えあえる地域づくりのため、区内で支えあいの活動を行う団体や取組について紹介しています。「ぐるる」とは、地域の支えあいをイメージできるワードである「つなぐ」「ささえる」「ひろがる」を表しています。これまではサービス提供団体や事業者間の情報共有を主な目的として発行していましたが、今年度からさらに、区民の方々の目に触れてもらえるよう、積極的に発信を行っていきます。

「ぐるる」が地域の活動者や団体を「つなげ」、時には「ささえ」となり、杉並区全域の支えあいの活動の輪が「ひろがる」ことを期待しています。ぜひお手にとってご覧ください。

もっと知ってほしい 地域の集いの場

西荻・善福寺オープンサロンDay実行委員会

出かけていけば、話し相手が見つかる。近隣の人たちと一緒に楽しく過ごせる。そうした集いの場、サロンが杉並区内のさまざまな場所で営まれています。人々につながる機会や居場所を提供する大切な活動です。けれども、地域でまだ広く認知されているとは言えないようです。そこで、西荻・善福寺オープンサロンDay実行委員会（以下、実行委員会）は、西荻・善福寺地域の10以上のサロンをつなぎ、誰でも参加できるイベントを開催するなどして、地域の人たちがサロンを知るきっかけづくりに取り組んできました。4年目を迎

る実行委員会の実践を取材しました。



令和元年開催のサロンツアーに集まる人たち

今号の主な内容

- 改めまして「杉並ぐるる」と申します 一支援あう地域を目指して一……………1面
- もっと知ってほしい 地域の集いの場 一西荻・善福寺オープンサロンDay実行委員会一……………1～3面
- 新しい「第2層生活支援コーディネーター」をご紹介します！……………4面

自分に合ったサロンを見つけてもらう

実行委員会結成の経緯を、中心メンバーの樋口蓉子さん（オープンリビングけやきの見える家代表）はこう説明します。「はじめは、善福寺地域のサロンが集まって情報交換をする連絡会を開いていたのですが、やがて、自分たちの活動が地域の人たちにまだまだ知られていないことを課題と感ずるようになりました。そこで、地域の人たちと交流する機会を作ろう、と実行委員会を立ち上げました」



「すぎなみフェスタ」にサロン紹介ポスターを設置

実行委員会には、西荻地域のサロンが参加して、毎月、話し合いを重ねました。そして令和元年5月には、11団体による2日間のイベント「西荻・善福寺オープンサロンDay」開催にこぎ着けました。期間中、各サロンが一般開放され、それらを巡るサロンツアーが組まれました。定員10名の参加者をスタッフが先導し、訪問先のサロンで用意されたプログラムを楽しみました。「サロンそれぞれに個性があり、活動内容や雰囲気も違います。自分に合った場所を見つけてもらうための見学会のようなもの」と樋口さん。実際、サロンの顔ぶれは、高齢者向けのサロン、善福寺公園に手作りの遊び場を設営する子育て支援グループ、国籍・障害などの違いを超えて多様な価値観を学び合う場など、実に多彩です。

地域への関心を高める効果も

イベントの反響は上々で、ツアー参加者からは、「各サロンの内容がわかってよかった」「今回見学したところ以外も自分で行ってみたい」などの感想が寄せられました。また、「知らないところでいろいろなことをやって



子どもから高齢者まで皆で作った「折り鶴の木」

いると知りました。今後はアンテナを広げたい」など、刺激を受けて、まちへの関心も高まった様子。「まち探検のような側面もありました。コースの途中にある店などについて、参加者が互いに知っていることを教え合う、といった交流も生まれていたようです」と樋口さんは振り返ります。

手応えを感じた実行委員会は、2年目は地域の小学校を会場に、まちの人たちが集まって交流できるイベントを企画しました。しかしながら、翌年令和2年は“コロナ元年”。準備していた企画はすべて中止となりました。代わりに、各団体のコロナ禍での取り組み（本誌16号で一部紹介）を紹介したパンフレットを作成し配布。また、11月には桃井原っぱ公園で開催の「すぎなみフェスタ」（主催：すぎなみフェスタ実行委員会、共催：杉並区、杉並区教育委員会）に参加して、地域のサロンをまとめて紹介するポスターでアピールしました。

まちが舞台の4つの企画

サロン同士が連絡を取り合い、互いの活動への理解を深めていく中で、実行委員会は、より日常の中たちでサロン同士が協働していく方向を目指すようになったといいます。令和3年は、まず4つの企画を立て、サロンごとにその中からやりたい企画を選んで、企画単位で集まって活動を進

めることになりました。

4つの企画はどれもまちが“舞台”という共通点があります。①「ご近所の譲り合い」は、桃井第四小学校で行われてきた不用品交換ですが、地域のアーティスト集



洒落たデザインの「ご近所の譲り合い」の箱

団「トロールの森」の協力を得て、不用品を入れるオリジナルデザインの箱を製作。開催期間中、各サロンの前に箱を並べました。②「みんなでつくる！ジオラマサロンMAP」は、サロン紹介マップを拡大印刷し、折り紙で作った建物や電車をその上に載せたジオラマを、善福寺公園サービスセンターとコミュニティスペース「西荻みなみ」に展示。一緒に展示した「折り鶴の木」は、木の枝に葉っぱに見立てた3,065羽の折り鶴が付けられていて、来場者を驚かせました。近隣のデイサービスなどの協力を得て、子どもから100歳の人までが、折り鶴づくりに参加したとのこと。まさに、地域のつながりを象徴する木です。ほかに、③仮装した子どもたちがパレードする「ハロウィン」、④装飾したリヤカーがサロンを巡る「思いを届ける移動式もの図書館」がありました。3年目を成功裏に終え、実行委員会の田中奈那子さん（民生児童委員）は、「地域で顔見知りの関係がつながり合って、ご近所の助け合いも活発になりそう」とわくわくしています。



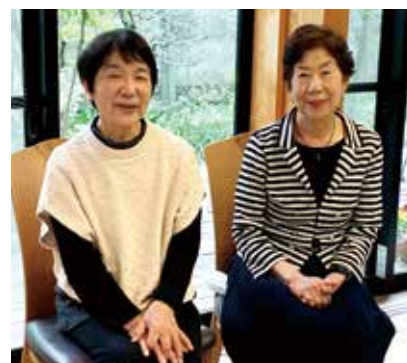
「思いを届ける移動式もの図書館」は子どもたちに人気

地域区民センター協議会とのコラボ

今年のオープンサロンDayは、10月に西荻地域区民センター協議会（以下、センター協議会）との協働イベントを予定しています。内容はサロンに行かなくてもセンターに来ればサロン体験ができる出張サロン等を計画中です。センター協議会は、地域団体を支援し、住民の皆さんのふれあいと交流を推進するため、毎年、「西荻センターまつり」などのイベントを開催しています。また、地域交流部部長の吉田優子さんによれば、毎年実施している「地域懇談会」に、さまざまな地域団体を隔年で招いて話を聞いたり、最近では、地域団体を広報するビデオ作成の企画を立てたりしているそうです。

昨年11月には、実行委員会が地域懇談会に招かれ、実行委員会のPRビデオをセンター協議会が作成し、センター協議会主催のイベントなどで上映することになりました。実行委員会から集めた映像や写真の素材を基に編集したビデオは、さっそく3月開催の子ども向けイベントで上映したそうです。

このコラボ企画に取り組む地域交流部の中村美奈子さんは、実は善福寺プレーパークの会代表。「子どもが地域に見守られるようになれば」と実行委員会に参加し、「さらに輪を広げたい」とセンター協議会委員募集にも手を挙げたそうです。地域のサロンとセンター協議会は、目指すところは近いはずなのに、あまり手をつなぐことがありませんでした。「これを機会に、センター協議会の活動と、サロンなどの地域の活動が協働できるようになればいい」と樋口さんは期待を寄せています。西荻・善福寺から地域活動の新しい風が吹き始めています。



樋口蓉子さん(左)と田中奈那子さん(右)

新しい

「第2層生活支援コーディネーター」をご紹介します！

杉並区内には高齢者の総合相談窓口であるケア24(地域包括支援センター)が20か所あり、いずれにも第2層(ケア24圏域)生活支援コーディネーター(以下「コーディネーター」と呼ばれるスタッフが配置されています。コーディネーターは、担当する地域で住民の皆さんが支えあえる仕組みづくりをするため、高齢者をはじめ多世代の皆さんが集える居場所づくりや交流イベント、勉強会など日常的な活動を側面的に支援するのが役割です。令和4年度に4つのケア24でコーディネーターが交代しました。4人の新しいコーディネーターをご紹介します。



ケア24善福寺 木村 未歩子さん

善福寺・西荻圏域には、沢山のサロン活動に加えて第2層協議体「ちょこっとご近“助”会」の活動が輪を広げています。今年から「防災」と「認知症」をテーマに勉強会を開き、地域住民の皆さんと一緒に新たな取り組みを始めよう！と熱く語り合っています。住民の皆さんの“伴走者”として一緒に活動しながら、「助け合いのまちづくり」のお手伝いをさせていただきたいと思います。

ケア24荻窪 窪田 昌仁さん

昨年度はコロナ禍で集まれないこともあり、人とのつながりの大切さを一層実感する年でした。サロンも徐々に再開され、新しいオレンジカフェも立ち上がりました。令和4年度は感染拡大に気を付けつつ、“withコロナ”での地域活動ができればと思っています。地域の皆さんの声を聞きながら、暮らしやすい地域づくりと一緒に考えていきたいと思っています。



ケア24高円寺 黒田 裕美子さん

サブカルチャーの街といわれる高円寺は、若い世代の人も多く住んでいます。その地域性を生かして多世代交流を目指しており、埋もれている社会資源を発掘しながら、若い人とシニア世代をどのように繋げていくか…を地域の皆さんと進めていきたいと思っています。「年をとっても病気になっても住み続けられる、元気な人が元気を維持できる」…そんな地域づくりを目指していきます。

ケア24方南 堀 梓左さん

コロナ禍によって地域活動が一時中断していましたが、形を変えながら少しずつ再開の動きが出ています。コロナ禍を経て、地域の状況も変化しているようです。地域住民の皆さんの声を聞き、課題やこれから何ができるのかを皆様とともに考えていきたいです。これからの出会いを楽しみに、顔の見える地域づくりに貢献できたらと思います。

